

留学生と創る！祇園祭サステナブル読本！ (文化継承と観光産業)

1 目的・概要

本科目は、京都最大の祭礼である祇園祭に関わる方々への取材や文化体験をもとに、留学生向けの読本制作、国連世界観光機関のプレゼンテーションに取り組むプロジェクトです。

新型コロナウイルス感染症による規制が緩和されつつある今、伝統文化は以前のような活気を取り戻そうとしています。しかし、継承者の志に触れて伝統そのものを理解しないことには、文化的、経済的に「サステナブル（本プロジェクトでは、文化と経済が相互利益を生み出し、伝統文化が永続的に継承される状態を指す）」な伝統継承をすることは困難です。そこで、本プロジェクトでは、京都最大の祭礼である祇園祭に着目し、取材や文化体験を通して得た歴史的背景や現状に関する知見をもとに、国際的視点から「サステナブル」な祇園祭の在り方について考えました。そして、留学生向けの読本制作や次世代を担う若者への情報発信を通して、その実現に貢献するための一歩を踏み出すことができました。



Annual Schedule

2023年	4月	チームビルディング、役割分担
	5月	ゲストスピーカー3名による講義、大船鉾会所見学 鷹山シンポジウム参加
6月	留学生との交流会	
7月	目的文の検討、函谷鉾・鶏鉾ちまき作り体験、鶏鉾ちまき巻き見学 鶏鉾ちまき販売ボランティア、大船鉾お囃子見学、曳き初め見学 春学期成果報告会	
8月	株式会社 Leaf 取材、読本制作開始	
9月	後藤鋳金具製作所・長刀鉾・三若神輿会取材	
10月	函谷鉾・全日本空輸株式会社・八坂神社・平成女鉾清音会・山鉾連合会・ 文化庁取材、ゲストスピーカーによる講義	
11月	留学生ワークショップ	
12月	国連世界観光機関の石崎様へ提言・成果報告	
2024年	1月	読本製本完了、秋学期成果報告会

2 成果達成度

本科目の成果は、大きく分けて3つあります。1つ目は、留学生を巻き込んだ企画を実施し、国際的な視点から今後の祇園祭の在り方を明らかにしたことです。春学期は、祇園祭や日本文化に興味をもつ留学生との交流会や文化体験をおこない、留学生が祇園祭の何に興味をもっているのかについてヒアリングしました。そして、秋学期は留学生とのワークショップに、鶏鉾保存会代表理事の坂本様、理事の田中様をお招きして、観光・経済・後継者に関する祇園祭の問題点や解決策を話し合いました。留学生が直接、継承者に質問する機会を設けることができ、国際的な視点からサステナブルな祇園祭の在り方についての考えも固めることができました。



2つ目の成果は、読本の配布を通して、留学生や若者への情報発信をおこなったほか、取材先の皆様にもお渡ししたことで、様々な立場の継承者同士が互いの想いや課題を知る機会を創出したことです。4月から11月までのインプットをまとめる作業に多くの時間を割き、計96ページにおよぶ読本の制作は私たちのプロジェクトの集大成ともいえる活動といえます。



3つ目は、過年度の活動にはない、国連世界観光機関の石崎様へ提言をおこない、作成した読本のホームページ掲載や、日本版持続可能な観光ガイドラインである「JSTS-D」の追加項目を検討していただけたことです。具体的な提言内容としては、祇園祭が1000年以上続いてこれた理由と、これから先も祇園祭が続いていくために必要なことについて、4月に石崎様からご教示いただいた「JSTS-D」に記載されているアセスメント項目から分析した上で、私たちなりの視点から提言をおこないました。フィードバックでは、「多方面からの継承者募集を念頭に置いたシンポジウムの開催が良いアイデアだと思った」といった声をいただき、サステナブルな祇園祭の実現に一歩近づくことができました。

3 プロジェクトを通じて

本プロジェクト活動を通して、想いを伝える難しさとチームワークの向上の2点を強く感じました。まず、想いを伝える難しさです。春学期と秋学期を通じて、多くの取材をおこないましたが、もともと祇園祭に詳しいメンバーはおらず、取材先で伺った内容のほとんどが初めて知る情報でした。その

ため、取材先で見聞きした内容を正確に捉えて、メンバー同士で共有することの難しさに気付きました。また、読本を通して、継承者の想いを全て伝えたいという思いをもちつつも、留学生を対象とした読本であるため、簡単な日本語で表現しなければならないという葛藤がありました。最終的に、読本に掲載する記事の校正では、多くのご指摘をいただき、継承者の想いを正確に記した読本が完成しましたが、想いを言葉として伝える難しさを強く感じました。



次に、チームワークの向上についてです。本プロジェクトの履修生は5人しかいない中、取材、文化体験、留学生ワークショップ、読本制作、国連世界観光機関への提言準備を同時並行で進める、活動量がとても多いプロジェクトでした。4月に、リーダー・副リーダー・会計・最終成果報告担当の4つの役割に分かれ、それぞれがリーダーシップを取って活動を進めてきました。春学期の活動では、目的文作成に当初予定していたよりも、授業内外で長い時間がかかりました。ただ、意見をすり合わせていく大変さを実感しながら、目的文作成に多く時間をかけたことによって、メンバー全員が思い描く方向性を明らかにすることができました。そして、秋学期の活動は、春よりも活動量が増えたため、タスクを細分化して、それぞれの役割ごとに活動を進めましたが、メンバー間の情報共有やスケジュール確認が不十分で、特定のメンバーに負担が集中してしまいました。そこで、メンバー間で当初よりさらに密なコミュニケーションをとるため、時には合宿をおこない、メンバー全員で補っていました。その結果、読本制作や提言を通して、活動目的であるサステナブルな祇園祭の実現に向けた一歩を踏み出すことができました。今となっては、5人全員が同じ目的に向かって、力を合わせたからこそ、過年度の活動にはない国連世界観光機関への提言をおこない、読本のホームページ掲載や「JSTS-D」の追加項目を検討していただけたと考えています。



編集後記

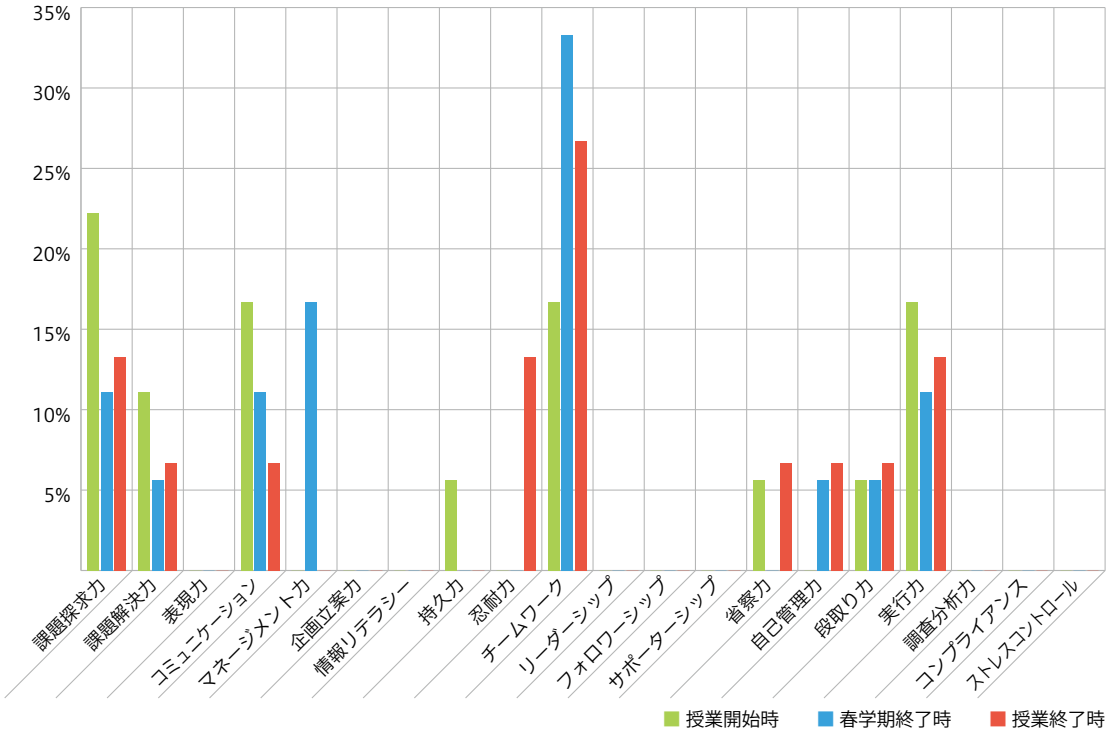
この1年間で、祇園祭に関わっている多くの方々との出会いを通して、とても貴重な文化経験をさせて頂きました。本プロジェクトは人数が5人しかいないということもあり、秋学期に96ページにおよぶサステナブル読本を作り上げる難しさはあったものの、関係者の皆様のおかげでそれ以上のやりがい・楽しさを感じることができました。突然のお願いにもかかわらず、祇園祭への想いを熱く語っていただいた取材先の皆様、プロジェクト科目を担当して下さった遠藤正彦さん、高岸雅子先生、徐潤純先生、吉井忠雄さん、SAの横田夏澄さん、プリントステーション・プロジェクト科目事務局の皆様の多大なるサポートのおかげです。学生一同、心より御礼申し上げます。来年度の更なる活動を楽しみにしています。

プロジェクトメンバー

稲本 真子(文3) 安藤 海伽(文2) 喜多 陽菜乃(文2) 谷山 茉優(社会2) 井手 歩美(グローバル地域文化4)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

Q1. チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んでください。



Q2. プロジェクト活動を通じて実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んでください。

